

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：感染管理

平成 26 年 5 月改

平成 29 年 3 月改正 (共通科目のみ)

平成 31 年 4 月改正 (共通科目のみ)

令和 2 年 2 月改正

令和 3 年 3 月改正 (共通科目のみ)

(目的)

1. 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。
2. 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。
3. 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

施設の中心となって多職種と協働しながら、医療関連感染の予防と管理を推進するために以下の能力を身につけることができる。

1. 施設の状況を評価し、医療関連感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築するための計画を立案できる。
2. 医療関連感染予防・管理システムの運用、評価、改善を実践できる。
3. 施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。
4. 医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠を評価し、医療を提供する場で実施されているケアの改善に活用できる。
5. 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる。
6. 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる。
7. 医療を提供する場で働くあらゆる人々からの相談に対応し、職業感染防止を推進できる。
8. 医療関連感染の予防と管理の視点からファシリティ・マネジメント（施設管理）を推進できる。
9. 関連組織と協働して、パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応ができる。
10. 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、倫理的配慮を行いながら医療関連感染の予防と管理が実践できる。
11. 上記 1～10 を通して感染管理分野の役割モデルを示す。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15	105	
	8. 特定行為実践	選択	15		105（+305）
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門基礎科目	1. 感染管理学	必修	15		240
	2. 疫学と統計学	必修	30		
	3. 微生物学	必修	15		
	4. 感染症学概論	必修	15		
	5. 感染症学各論	必修	30	小計	
	6. 医療管理学	必修	15	120	
専門科目	1. 医療関連感染サーベイランス概論	必修	15		240
	2. 医療関連感染サーベイランス各論	必修	30		
	3. 感染防止技術	必修	30		
	4. 職業感染管理	必修	15		
	4. 感染管理指導と相談	必修	15	小計	
5. 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	必修	15	120		
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	90		270
	臨地実習	必修	180	小計	
			総時間数		615（+305）

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	1. 感染管理学	1) 医療関連感染の予防と管理の歴史と変遷について理解できる。 2) 感染管理認定看護師の活動の実際について理解できる。 (1) 感染管理認定看護師の役割と機能（多職種との連携を含む）について理解できる。 (2) 感染管理認定看護師の役割と機能を発揮するための姿勢や手法について理解できる。 (3) 自施設及び地域における感染リスクのアセスメントが理解できる。	1) 医療関連感染予防・管理概論 (1) 医療関連感染予防・管理の歴史と変遷 2) 感染管理認定看護師の役割 (1) 感染管理認定看護師の役割と機能（多職種との連携を含む） (2) 感染管理認定看護師の活動の実際 3) 自施設及び地域における感染リスクのアセスメント	15
	2. 疫学と統計学	1) 医療関連感染の予防と管理に必要な疫学の基礎知識を理解できる。 2) 医療関連感染の予防と管理に必要な統計学の基礎知識を理解できる。 3) アウトブレイク対応の具体的な手法を理解できる。	1) 医療関連感染予防・管理の基礎となる疫学 (1) 疫学用語の定義 (2) 疫学的指標 ・罹患、有病、死亡に関する指標 ・リスク推定の指標（相対リスク、オッズ比等） ・妥当性に関する指標（感度・特異度・的中率等） (3) 疫学研究デザインの種類と特徴 2) 医療関連感染予防・管理の基礎となる統計学 (1) 変数の種類と特徴 (2) 記述統計 ・度数分布表とヒストグラム ・中心傾向：平均値、中央値、最頻値 ・分布：範囲、パーセンタイル、標準偏差、正規分布とゆがんだ分布 (3) 推測統計 ・点推定、区間推定 ・仮説検定の手法（感染予防と管理に頻用するパラメトリック検定とノンパラメトリック検定：T 検定、 χ^2 検定等） 3) アウトブレイクの調査・介入 (1) アウトブレイク調査・介入に関する基本的な考え方と手順	30

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	3. 微生物学	1) 病原微生物の分類と特徴が理解できる。 2) 医療関連感染で問題となる微生物・感染症について理解できる。 3) 薬剤耐性獲得のメカニズムが理解できる。 4) 薬剤耐性菌の種類と特徴について理解できる。 5) 感染症の検査の概要及び検体の取り扱い等について理解できる。	1) 微生物学 (1) 病原微生物の分類と特徴 (2) 医療関連感染で問題となる微生物 (3) 薬剤耐性獲得のメカニズム (4) 薬剤耐性菌の種類と特徴 2) 感染症の検査 (1) 鏡検、免疫・血清学的検査（迅速検査、ペア血清、インターフェロング遊離試験等）、遺伝子検査、培養、感受性試験等の目的、原理、結果の解釈、活用 (2) 適切な検体の採取方法と取扱い (3) 検査の感度と特異度	15
	4. 感染症学概論	1) 免疫機構と感染の成立について理解できる。 2) 易感染状態について理解できる。 3) 抗微生物薬の種類と薬理作用について理解できる。	(1) 免疫機構と感染の成立（新生児・高齢者の免疫機能の特徴を含む） (2) 易感染状態の理解（移植・熱傷・がん化学療法・放射線療法・ヒト免疫不全ウイルス感染症等） (3) 抗微生物薬の種類と薬理作用	15
	5. 感染症学各論	1) 主な感染症の診断・治療・予防について理解できる。 2) 薬剤耐性菌感染症の診断・治療について理解できる。 3) 新興・再興感染症、輸入感染症について理解できる。 4) ワクチンで予防可能な感染症について理解できる。	(1) 主な感染症の診断・治療・予防 ・血流感染、尿路感染（いずれも医療器具関連感染を含む） ・手術部位感染 ・肺炎 ・感染性胃腸炎 （ <i>Clostridioides difficile</i> 感染症を含む） ・結核 ・流行性ウイルス性感染症 ・ウイルス性肝炎 ・ヒト免疫不全ウイルス感染症 ・髄膜炎 ・疥癬 ・クロイツフェルト・ヤコブ病 ・母子感染による感染症 (2) 薬剤耐性菌感染症の診断・治療 (3) 新興・再興感染症、輸入感染症の理解 (4) ワクチンで予防可能な感染症	30

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
6. 医療管理学	1) 医療関連感染の予防と管理に関する政策や診療報酬制度について理解できる。 2) 医療法、感染症法、学校保健安全法、予防接種法等の関連法規・制度の種類とその内容について理解できる。 3) 医療における質の改善と評価について理解できる。 4) 医療関連感染の予防と管理における危機管理について理解できる。	1) 医療提供システム (1) 政策と診療報酬 (2) 関係法規 (医療法、感染症法、学校保健安全法、予防接種法等) 2) 医療における質と効率 (1) 第三者評価 (2) 費用対効果 3) 医療関連感染の予防と管理における危機管理 (1) リスクコミュニケーション (2) 感染と訴訟 ※リスクコミュニケーション 感染症やアウトブレイクのリスク、現状、対策などに関する情報や意見を分かりやすい方法で個人、集団、組織間で交換し、相互理解を深めるプロセス	15

		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. 医療関連感染サーベイランス概論	1) 医療関連感染サーベイランスの概念について理解できる。	1) サーベイランス概論 (1) サーベイランスの定義・目的 (2) サーベイランスの種類 (3) サーベイランス実施に向けた施設のアセスメント (4) サーベイランス・プログラムの要素計画立案 (5) 実施方法（分母・分子の考え方、リスク調整等） (6) 医療関連感染サーベイランスデータの分析及び活用方法	15
	2. 医療関連感染サーベイランス各論	1) サーベイランスデータの分析及び活用方法について理解し、実践できる。 2) 代表的な医療関連感染サーベイランスの種類と具体的手法について理解し、実践できる。 3) 医療関連感染サーベイランス・プログラムの立案と実施について理解し、実践できる。	1) 医療関連感染サーベイランス各論 (1) 医療器具関連感染サーベイランス（カテーテル関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連尿路感染） (2) 手術部位感染サーベイランス (3) プロセスサーベイランス (4) 微生物サーベイランス（薬剤耐性菌などの主要な微生物） (5) 感染症サーベイランス（ <i>Clostridioides difficile</i> 感染症や結核などの感染症） (6) 症候群サーベイランス	30
	3. 感染防止技術	1) ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。 2) 科学的根拠に基づいて実施が推奨される感染予防策のアドヒアランスを向上するための取り組みについて理解し、実践できる。 3) 特有の感染リスクを有する部門において、ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。	1) 感染予防策とアドヒアランス向上のための取り組み (1) 標準予防策 (2) 感染経路別予防策 (3) 医療器具関連感染予防策（血流感染、尿路感染、人工呼吸器関連肺炎） (4) 手術部位感染予防策 2) 部門別感染予防 (1) 集中治療部門（成人） (2) 新生児・小児集中治療部門 (3) 手術部門 (4) 救急部門（熱傷管理を含む） (5) 外来部門（日帰り手術・化学療法等） (6) 移植部門 (7) 周産期部門 (8) 小児部門 (9) 内視鏡部門 (10) 透析部門 (11) 高齢者施設/在宅 3) パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応 (1) パンデミック、災害における感染管理認定看護師の役割 (2) パンデミック、災害への備え (3) パンデミック、災害発生時の対応	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	4. 職業感染管理	1) 職業感染管理の目的が理解できる。 2) 労働安全衛生教育の必要性が理解できる。 3) 職業感染の原因となる微生物の特徴が理解できる。 4) 職業感染の予防策と発生時の対応を理解し、実践できる。 5) 感染性微生物曝露者、接触者への対応や感染源の調査方法を理解し、実践できる。	1) 労働安全衛生 2) 職業感染予防・管理 (1) 血液媒介病原体による針刺し・切創・汚染予防と曝露後対応 (ヒト免疫不全ウイルス、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスなど) (2) 流行性ウイルス感染症の予防と曝露後対応 (麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎、インフルエンザ) (3) 結核の曝露後対応 (4) その他 (流行性角結膜炎、疥癬、感染性胃腸炎など)	15
	5. 感染管理指導と相談	1) 施設における医療関連感染の予防と管理に関する指導プログラムの立案・実施・評価について理解し、実践できる。 2) 職員が医療関連感染の予防と管理に関して行動を変容できるための具体的な方策について理解し、実践できる。 3) 医療関連感染の予防と管理に関する相談システムの構築方法について理解し、実践できる。 4) 医療関連感染の予防と管理に関する相談の実践について理解し、実践できる。	1) 医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での指導 (1) 指導計画の立案と評価 (2) 指導の実際 2) 医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での相談 (1) 相談システムの構築 (2) 相談の実際 ・医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対する指導、相談を含む ・地域連携に関わる指導、相談を含む	15
	5. 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	1) 洗浄・消毒・滅菌の原則について理解し、説明することができる。 2) 洗浄・消毒・滅菌が適切に行われるために、感染管理認定看護師が行う活動内容について理解し、実践できる。 3) ファシリティ・マネジメント(施設管理)の原則と実際について理解し、実践できる。	1) 洗浄・消毒・滅菌の原則と実際 (1) 洗浄・消毒の原則と実際 (2) 滅菌の原則と実際及び滅菌物の取り扱い 2) ファシリティ・マネジメント(施設管理)の原則と実際 (1) 廃棄物、給食、空調、水、清掃、リネン管理 (2) 建築・改築時のリスクアセスメントと対策	15

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	学内演習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自施設における医療関連感染予防・管理システムについてアセスメントを行い、具体的課題と対策を明文化することができる。 2) (1) で明らかになった課題及び対策を反映したプログラムを立案することができる。 3) エビデンスに基づいた医療関連感染予防・管理に必要な情報収集と分析ができる。 4) 組織横断的かつ主体的な改善活動を行うためにプレゼンテーション、文書作成などの必要なコミュニケーションスキルを習得できる。 5) 基本的な微生物学的検査の意義・実施方法・解釈の方法について理解し、実践できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療関連感染予防・管理プログラムの立案（講義での学びを基に各施設における感染管理・予防上の課題を把握・考察し、各施設に応じたプログラムを以下の7項目にそって立案） <ul style="list-style-type: none"> ・医療関連感染予防・管理システム ・医療関連感染サーベイランス ・感染防止技術 ・職業感染管理 ・感染管理指導 ・感染管理相談 ・洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント 2) エビデンスに基づいた医療関連感染の予防と管理に必要な情報収集と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語及び英語文献の検索方法と読み方 ・感染予防策の有効性に関する科学的根拠の検索方法とエビデンスレベルに関する判断 ・医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠の評価 3) 主体的な改善活動を行うために必要なコミュニケーションスキル（プレゼンテーション、文書作成など） 4) 微生物検査（15時間以上） 細菌グラム染色、細菌分離培養及び同定検査、薬剤感受性試験 	90
臨 地 実 習	臨地実習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、一部実践できる。 	所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、下記の7項目すべてについてそれぞれ一部を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療関連感染予防・管理システム 2) 医療関連感染サーベイランス 3) 感染防止技術 4) 職業感染管理 5) 感染管理指導 6) 感染管理相談 <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携に関わる指導、相談を含む 7) 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント 	180